

令和5年度第3回帯広警察署協議会議事概要

1 開催日時

令和6年3月14日(木) 午後4時00分から午後5時00分まで

2 開催場所

釧路方面帯広警察署 大会議室

3 出席者

(1) 協議会委員 8人(定員12人)

会 長	田 村 修 一			
副 会 長	馬 場 久 男	石 水 弘 美		
委 員	神 田 哲 也	眞 野 尚 史	本 田 千 枝 子	
	安 部 昭 彦	佐 藤 恵 津 子		

(2) 警察署員 7人

署 長	工 藤 博 光
副 署 長	兼 平 宜 行
刑事・生活安全官	一 原 誠
地域官兼地域課長	齊 藤 憲 明
交通官	林 秀 明
警務官兼警務課長	毛 利 政 己
警務係長	

4 協議内容等

- (1) 令和5年中の業務概況について
- (2) 協議会アンケート結果

5 質疑応答

(1) 令和5年中の業務概況について

【委 員】 最近の特殊詐欺の手口や種類、発生状況について伺いたい。

【警 察】 『投資に誘ってお金をだまし取る』といった手口が多い傾向です。
昨年から発生時に各報道機関等を通じて広報啓発し、発生はやや落ち着きを見せていますが依然として予断を許さない現状です。

【委 員】 前回意見のあった民間企業と連携した啓発活動について伺いたい。

【警 察】 中札内村の株式会社昭和熱器工業と連携して、ガス検針時に駐在所勤務員が同行し、特殊詐欺に関する注意喚起等を実施しました。

住民と顔見知りの方が警察官と同行し一緒に啓発することで、緊張感がとけ「わかりやすかった」「聞きやすかった」と好評であったことから継続

して様々な企業と連携して啓発活動を行っていきたくと考えています。

【委員】 昨年交通事故の状況について伺いたい。

【警察】 昨年中の帯広警察署管内の交通事故は令和4年と比較し、物件事故は増加し、人身事故は倍増しました。
交通死亡事故件数は2件でした。
帯広市内の死亡交通事故ゼロの日数が、1974年の統計開始以降初めて500日を達成し現在も継続中です。

【委員】 サイバーセキュリティについて警察の活動について伺いたい。

【警察】 管内の事業者に対するサイバー攻撃対策の向上を目的とした「サイバー攻撃対策ワークショップ」を本年度中複数回実施しました。
このワークショップでは実際にサイバー攻撃を受けた状態などを体験してもらったり対応方法について学んでもらっています。
来年度も実施する予定ですので参加をお願いします。

(2) 協議会アンケートに関する質疑

【委員】 いじめが問題となっており、意識改革に繋がる警察の活動について伺いたい。

【警察】 北海道警察には札幌と旭川に少年サポートセンターという部署があり、それ以外の地域には短期で駐留して対応するという形をとって「いじめ」に関する対応をしています。
各学校にサポートセンター職員やいじめ被害の家族等が「いじめ」についての講話を行っており、効果があると反響を受けています。
要望があれば職員を派遣することから気軽にご相談ください。

【委員】 いじめ問題に警察でとることのできる対応について伺いたい。

【警察】 「いじめ」については一つ一つの事案が全く異なる事象であり、一律にとれる対応は違ってきますが、平成25年に「いじめ防止対策推進法」が施行され、適切に対処していくための基本的な理念や体制が定められており、教育現場での対応方法や犯罪行為があれば積極的に警察が介入して事案を解決していきます。

【委員】 警察が学校で行っている講話について伺いたい。

【警察】 生活安全課では、薬物乱用教室や防犯に関する講話を小学校、中学校、高校で年齢に合わせて行っています。
「いじめ」は、小学校が一番多いというデータもあることから、小学校での講話等を積極的に行っていきます。

【委員】 いじめ加害者の親に対する警察の対応について伺いたい。

【警察】 少年事件における加害少年の健全育成については、親の協力も必要です。

いじめ被害者が「学校に行けなくなった」「命を絶ってしまった」という事案が一つでもなくなるように、関係機関と連携して、全ての親にも伝わる活動について強化していきます。

【委員】 防犯に関するタイムリーな情報発信活動について伺いたい。

【警察】 北海道警察では「ほくとポリス」という防犯アプリがあります。

このアプリは犯罪・不審者・特殊詐欺の情報にマップに表示する防犯マップ等、防犯に役立つ機能が搭載されています。

更に見守り防犯パトロールを行うと、その距離に応じて階級が上がっていくゲーム性も備わっています。

このようなアプリがあることを知らない人が多いことから、認知度、普及度を高める活動を推進していきます。

【委員】 自転車の交通違反の現状・課題について伺いたい。

【警察】 全国的に自転車と歩行者の事故が多発しており、去年は当署管内でも自転車が歩行者と接触して重傷事故に発展した事故もありました。

自転車の交通違反も多く、道路交通法が改正されれば、16歳以上を対象に反則切符が適用となります。

自転車の事故を減らすためにもルールを守らせる活動を推進していきます。

【委員】 ヘルメットの着用率向上に向けた警察の活動について伺いたい。

【警察】 昨年朝の通勤、通学時間帯の自転車利用者のヘルメット着用率はかなり低調であったことから、自転車事故による怪我の重症化を防止するためにも着用についての声掛けや各学校、関係機関と連携して取り組んでいきます。

6 次回開催予定

令和6年6月中を予定している。